

# カボチャ (南京)



## 育苗

播種箱  
7日間  
20℃

移植床  
(ポット)  
23日

床土 (培土)



●畑の大将<青> 3%ほどを培土に混和しておく → 苗の充実。

灌水は早朝に  
(後半は夕方でも可)



●根っ酵素1000~500倍液 → 根を強く動かし、生長を促進。

●花咲くCa液1000~500倍 → 茎葉を厚く充実させ、花芽促進。

灌水・散水時に  
二つの液を交互  
に使用 (4日ごと)

①播種・覆土後、酵素液1000倍を温湯灌水 → 発根・発芽を揃える。

②発芽後2日(鉢上げ前日)Ca液1000倍を灌水 → 双葉苗の充実。

③鉢上げ時、酵素液1000倍をタツプリ灌水 → 活着・発根促進。

④鉢上げ3日後、Ca液1000倍を灌水 → 苗質の充実・徒長防止。

本葉2枚まで、夜温18℃、③④を3日ごと交互に繰り返す。

⑤本葉2枚になったら、Ca液500倍散布、翌夜から夜温12℃に。

以後、4日ごとに酵素液・Ca液500倍散布を交互に繰り返す。

⑥定植7日前にズラシ(鉢間隔20cm)後、酵素液500倍で散布。

3日後(定植4日前、摘芯2日前)にCa液500倍で充実させる。

葉上から培土まで  
染み込むようタツプリ  
と散布

右記①~⑥は育苗の一例

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
本畑の地力作り	なるべく早めに 定植20日前迄に全面に投入して、耕耘する (土壤全体に肥料分が行き渡るように)  ※茎葉残渣は是非鋤き込む事	●ラクトバチルス600g → 排水よく、安定した土を作る。 ●堆厩肥1トン~2トン(有機物がなければ米ヌカ150kg以上) ●硫安30kg (もし複合肥料ならN成分:6kg程度・・・追肥をする場合) ※追肥をしない場合は、硫安50kg(N:10kg)を施す。 堆肥・有機物が無く、砂地の場合は硫酸カリ10kg追加。 ※このチッソは有機化し、緩効的に効く。植付け時には土壤EC:0.1~0.2(0.3未満)に安定していることが大事。 カボチャは吸肥力が強く、チッソ過多になりやすいので、特に注意。 ※もしも土壤pH:5.8以下と酸性の場合は、畑の大将<青>を30kg前後追加する。(前作に不足だった分)
本畑の整地時	整地・ウネ作り時に全面散布 (畑土全面またはウネの全面に、均等に散布し、なるべく土に混ぜる)	●畑の大将<青> 40kg  ※初期に、チッソよりカルシウムが強いバランスにする事。 土に肥料分が多い場合は畑の大将を60~80kgに。 カボチャでは、定植直後に伸びた根が吸収を始める栄養バランスで、開花・着果・果実品質まで決定するので、カルシウムを多めに。 ※連作畑、地力のない畑、根の伸びの悪い畑ではマンゾク粒状30~60kgを追加。

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
定植時	<p>直播きの場合、 2葉で間引き後 酵素液を灌水</p> <p>①苗へ散水②ドブ漬け③定植前にタツプリ迎え水④定植後の灌水…いずれかの方法で</p>	<p>●根っ酵素2～5ℓを灌水(希釈倍率は500倍程度で適宜) →活着・深層への根張り促進。(決してチッソは効かせない事) ※鉢土を落とさないようにやや浅めに定植し、タツプリ深く灌水する。 ※この頃(主枝が残してあれば本葉5枚)、既に16節までの花芽分化は済んでいる。花質・果質の半ばは育苗と定植前後迄に決定済み。</p> <p>【注意】 ツル長50cm位の頃(側枝仕立てなら整枝・誘引時)にチッソ肥料を施すことは決してしない事。もし草勢強化が必要なら、酵素液の灌水か葉面散布、またはマンゾク粒状20kgが効果的。 雌花の開花・着果時にチッソ少なめ、カルシウム充分な栄養状態にしておけば、果端(尻)が一円玉くらいに小さく、糖度も上がる。</p>
雌花前	定植後7日～23日 一番果の花前	<p>●花咲くCa液500倍を葉面散布、または2ℓ灌水 ※カルシウムで着果よく、草勢が旺盛すぎず、ウドンコやベトも少ない。 ※低節位(7節まで)に実が着いたら奇形化しやすいので、摘果する。 8節～10節の雌花に一番果を授粉する(低温期は人工交配)その後、4～5節ごとに雌花が着生するので、1株3果程となる。</p>
追肥	一番果の着果後、 ツル先(10cm)に	<p>●硫安20kgを同量・同時に一握りずつ散布 (ただし草勢を見て量を調節する)</p> <p>●畑の大将20kg</p>
仕上げ	着果後35日、収穫10日前頃	<p>玉直し時 ●花咲くCa液500倍を葉面散布 →糖度・旨味増加。</p>

以上は、「えびす」等の西洋カボチャの施肥。「菊座」等の日本系品種では施肥量を3割ほど減らす事